第３４回新生ふくしま復興推進本部会議

○日　時：平成２７年２月１６日（月）９：４５～１０：１０
○場　所：特別室（本庁舎２階）

【副知事】
ただ今から、新生ふくしま復興推進本部会議を開催いたします。
早速、「環境創造センター交流棟展示室の概要について」、生活環境部長。

【生活環境部長】
資料１をご覧ください。環境創造センターは、本県の環境を回復し、県民が将来にわたり安心して暮らせる環境を創造するために、三春町及び南相馬市に整備を進めております。このうち、平成２８年度のオープンを予定しております、三春町の交流棟の中に設ける展示室の実施設計がほぼまとまりましたので、ご説明いたします。

資料の１ページ目は、三春町に整備する環境創造センター全体のイメージパースになっております。左が研究棟、真ん中が本館、右の点線で囲んでいる建物が交流棟でございます。交流棟の平面図がページ下にありますけれども、赤い点線で囲んだ部分が展示エリアになっています。

次に２ページをお開きください。展示室の全体構成ですが、４つのエリアからなっております。

３ページをご覧ください。展示室全体の俯瞰イメージであります。知る「フロム３．１１スクエア」、体験する「放射線ラボ」と「環境創造ラボ」、未来を描く「環境創造シアター」がございます。

４ページ、５ページは、「フロム３．１１スクエア」エリアのイメージパースでございます。ここは原発事故から現在までの復旧・復興に向けての福島のあゆみと現状を伝える展示でございます。

６ページから１０ページは、「放射線ラボ」のイメージパースとなっております。「放射線ラボ」は、来場者が体験型の展示を通して、放射線について学び、また、各種モニタリング、除染などの取組を知ってもらうという内容の展示をいたします。

１１ページ、１２ページの「環境創造ラボ」は、再生可能エネルギー導入の推進、低炭素社会・循環型社会の形成、自然との共生の観点から、福島の環境創造に向けての意識を醸成する展示を行います。

もう一度、３ページにお戻りください。えんじ色の線で囲まれた「環境創造

シアター」は、球体の中から３６０度全方位に映し出される映像を観覧できるシアターになっております。上映する映像は、放射線についての理解を深めるための映像、そして、福島の魅力と未来像を伝える映像の２作品について制作に着手しております。

その他のエリアにつきましても、３月までに実施設計を完了し、来年度に展示物の製作を行ってまいります。県内の子どもたちを始め多くの方々に、来館を通して、放射線についての理解の促進と、福島の現状や未来像の国内外への発信等を目指し、関係部局と連携しながら進めてまいります。

【副知事】

この件に関して、知事からお願いします。

【知事】

ただ今、説明がありました交流棟の展示等を通じて、子どもたちを始めとする多くの方々に、放射線や環境に関する正しい知識の普及を図っていくとともに、モニタリング結果あるいは環境回復・創造への取組をしっかりと発信していくことが、福島県の復興にとって、重要であります。調査研究機能と併せて、しっかりと交流棟展示室の準備を進めていただきたいと思います。以上です。

【副知事】

それでは、報告事項の２つ目、「ふくしまからはじめよう。未来をつくるプロジェクト」について、企画調整部長。

【企画調整部長】

資料２をお開きください。「未来をつくるプロジェクト」について状況を報告いたします。

このプロジェクトは、昨年８月から、震災以降の多大なる支援に対して、しっかりと感謝の意を示し、支援者との絆や連携を一層深め、風化防止や風評払拭を図っていこうとするものであり、知事を始め、各部局長がそれぞれ、企業、団体、自治体への訪問活動を実施しているところであります。

資料２左側でございますが、自治体への取組として、昨年８月以降１５か所で、総務部や観光交流局等と連携して進めてまいりました。主な事例として東京都を挙げておりますが、職員派遣のみならず、観光誘客や情報発信等、様々な支援をいただいております。先週１２日（木）の「東北４県・東日本大震災復興フォーラムin東京」についても、東京都の御協力をいただいて開催しております。

対応いただいている内容は、観光、特に教育旅行について、８月１８日に市区町村教育委員会への依頼文を送付いただき、また９月２日には、都立高校の校長会で本県の教育旅行のコンテンツを紹介していただいております。また、資料をつけておりますが、都の広報誌１１月号の２面で、大きく福島県のお米を取り上げていただきました。

その他の団体にも、広報誌を活用した福島のＰＲをお願いしておりまして、資料の左側には、宮崎県の広報誌２月号に掲載された本県への派遣職員の方の報告を載せております。その「福島県の現状」には、「赴任して驚いたことは、福島県の放射線量の数値が原発付近を除けば宮崎とほぼ同値であったことです。」とあり、こういった派遣された方の生の声を掲載していただいております。

それでは、資料２にお戻りください。今紹介した以外にも、さいたま市、滋賀県、千葉県の広報誌等において、情報発信を実施していただいているほか、観光誘客等への支援、避難者支援の継続、職員の派遣継続等を実施していただいております。なお、この後、本県に派遣で来ていただいている方々に、報告していただきます。

また、企業・団体等については、６４か所を訪問いたしました。主な事例としては、「ふくしま応援企業ネットワーク」が設立され、大手企業１１社が加盟し、全国各地の社員食堂を活用いただき、ネットワーク全体で県産品の情報発信に協力いただいており、大きな効果が期待できると考えております。

最近の事例としては、キリンで、福島県産の梨を使った「和梨」に続き、県産の「桃」を使った氷結の発売が決定いたしました。このほか、企業マルシェの開催を始め、新たな連携・協力が生まれてきておりますので、引き続き関係部局が連携して取り組んでまいりたいと思っております。

なお、こうした取組等につきましては、先日紹介した県の復興ポータルサイト「ふくしま復興ステーション」で情報発信し、感謝を伝えていきたいと思っております。

【副知事】

関連して、農林水産部長。

【農林水産部長】

今、企画調整部長からもご紹介があったように、好評だったキリン氷結「和梨」に続いて、福島県産の「桃」を使った氷結が、３月３日、ひなまつりの日に発売されます。

その他、東京メトロでは「ふくしま産直市」の継続、みずほフィナンシャル

グループでは一般向け物産展の開催、カルビーでは県産品を使った新商品の開発等、それぞれ前向きに検討していただいているところでございます。

【副知事】
　では、企画調整部長から。

【企画調整部長】
　ここで、このプロジェクトとも大いに関連しますので、先ほど少し触れましたが、派遣で本県に着任いただいているお二人から報告を受けたいと思います。
　まず、岡山県から商工労働部で御活躍いただいている、八木主任主査からお願いいたします。

【八木主任主査（派遣元：岡山県）】
　岡山県から派遣で来ております、八木と申します。よろしくお願いいたします。私は、昨年４月から、福島県に派遣されておりますが、最初はやはり、岡山県あるいは西日本と福島県との温度差や、震災と原発事故に対する認識の違い、風評被害を、非常に強く感じました。
　自分自身、西日本から来ている人間として何か出来ないかと、お手元に配っております「福島ＦＵＫＵ－Ｏプロジェクト手をつなごう岡山」という企画を考えさせていただきました。一つのコンセプトとして、実は、私の出身県・岡山も桃の生産地でありまして、フルーツ王国とも言われております。お配りしたパンフレットの表紙に、日本地図がデザインされておりますが、濃い赤色が福島県の桃の「あかつき」、薄い桃色が岡山県の「白桃」で、桃の生産県同士で風評被害を払拭できないかという思いを込めて、自分でデザインして作らせていただきました。
　具体的なこれまでの取組については、やはり若い世代への情報発信として、岡山の高校や大学の学園祭や文化祭５校及び１団体で、福島県のいろいろな農産物「サンふじ」や「天のつぶ」の販売やＰＲ、県立高校の学生が開発した商品を販売したりしました。特にりんごがとても好評だったこともあり、こういった活動を通じて、福島県のりんごは美味しいな、と西日本の人にも感じてもらえるようになったと思います。
　今後の取組としては、東日本大震災から４年が経過する来月の２８、２９日に、岡山駅前で２つの事業を開催したいと考えております。一つは「福島×岡山☆復興【ＦＵＫＵ－Ｏ】学生サミット」という企画、もう一つは「福島復興【ＦＵＫＵ－Ｏ】春フェスin岡山」と企画で、こちらは野外ですが、この二つを展開させていきたいと考えております。

「福島×岡山☆復興【ＦＵＫＵ－Ｏ】学生サミット」では、福島の学生を約３０～４０名、岡山にお呼びし、福島の復興のことや魅力、自身が取り組んでいる復興への取組や熱い思いを岡山の学生に語っていただきます。併せて、福島と岡山の学生でディスカッションを行い、西日本を中心に、もっと福島の魅力を発信するためにはどうしたら良いか、また、岡山から、遠くからできる復興支援は何か等について考えていきたいと思っております。当日は、学校の先生方も来場されると思われますので、教育旅行にも繋がれば幸いであると考えております。

もう一つの「福島復興【ＦＵＫＵ－Ｏ】春フェスin岡山」では、岡山駅前にテントをたくさん張り巡らせ、物販や写真のパネル展示、具体的にはフルーツを使ったクレープを当日限定で販売したり、浪江焼きそばや餃子、天のつぶ等の販売をしたりしたいと考えております。その他にも、福島のダルマをピックアップした参加型のアトラクション等も考えております。特別なホームページも作っておりますので、もしよろしければ、一度ご覧いただければと思います。以上、ご静聴ありがとうございました。

【企画調整部長】

次に、東京海上日動火災から企画調整部で御活躍いただいている、海鉾復興企画員からお願いします。

【海鉾（かいほこ）復興企画員（派遣元：東京海上日動火災）】

東京海上日動から出向しております、海鉾と申します。ただ今、復興・総合計画課でお世話になっておりまして、平成２５年７月から派遣され、１年８ヶ月が経とうとしております。

私は、福島県に派遣される際に、特に二つのことを意識しておりました。一つは、県庁内での自身の担当業務をしっかりやり遂げることで福島県の復興に貢献しようということ、もう一つは、民間からの派遣者としての自身の役割を意識し、その取組から福島の復興に貢献しようということです。

一つ目の担当業務につきましては、近藤部長を始め、皆さまにご指導いただきながらではありますが、公私にわたり、多くの方と人間関係を築かせていただき、あらゆる業務に精力的に取り組ませていただきました。

特に印象に残っておりますのは、当初予算における復興基金を財源とする重点事業の採択に関わる業務を担当させていただいたことでございます。総合計画、復興計画の進行管理委員会で出された委員の方のご意見や、地域懇談会での県民の皆さまからのお話を踏まえ、企画調整部として全体を俯瞰した視点か

ら、また民間派遣者としての視点から、事業の磨き上げをしっかり努めてまいりました。同時に、この業務を通し、有事における県の予算がどのような過程で作り上げられていくのか、また、その予算を確保するために国に対しどのような要望活動を行い、どのような交渉をするのか、全体の流れを知ることができ、非常に貴重な経験となりました。

二つ目の民間派遣者としての私の役割ですが、それはまさに、福島の現状を当社内に発信し、一人でも多くの人に福島の現状を知ってもらい、会社としての支援、また個人的な支援や協力を取りつけていくことでございます。

お手元の資料にもございますが、東京海上日動は、福島県の復興にあらゆる形で貢献できるよう、当社福島支店を中心に、取組を行ってきました。除染作業にかかる賠償責任補償制度の発足といった本業での取組や、小学生を対象とした環境や防災について学ぶ「みどりの授業」「ぼうさい授業」の開催、更には直接的な支援としまして、物産展の継続的な実施や、社員食堂での福島県ご当地メニューの提供等、福島の魅力を発信すべく、取組を進めてきました。

お手元の資料裏面には、２０１４年度に実施した「ふくしま復興支援マルシェ」の様子を載せております。７月２２、２３日の２日間にわたり物産展を展開させていただきましたが、２日間で約１６０万円の売り上げになりまして、参加いただいた業者の皆さまからも非常に感謝をいただきました。また、復興庁にも、当社からの出向者がおりましたので、そこと連携しながら、小泉政務官にもお越しいただき、盛り上げていただきました。当社の永野社長からもご挨拶いただくなど、非常に大盛況なマルシェとなりました。

先日は「未来をつくるプロジェクト」で、近藤部長に東京海上日動に来ていただきまして、その際に当社の北沢副社長から、マルシェに関して継続的にやっていくとの話があり、早速ですが、２０１５年度のマルシェの企画を始めているところでございます。また、２月末には、当社のスキー・スノーボード部と福島支店のメンバー総勢７０名が合同合宿という形で、スキー合宿を実施する予定でございます。

更に、３月末に発行されます社員、代理店向けの広報誌の中で、震災から４年が経過した被災３県の現状を特集してもらいます。多くの人に福島の今を知ってもらうとともに、４月から始まりますＤＣのＰＲ等も組み込み、観光の呼び込み等もしていきたいと思っております。

震災以降、当社の中で「震災を忘れない」「できることを長く続けていく」という言葉が多く聞こえてくるようになりました。これは有事の際に、ご契約者を守り、地域社会に貢献することが保険会社の使命である以上、有事を決して過去のものにしてはいけないという思いからでございます。自身の派遣の任期は３月末で終了しますが、会社に戻ってからも、福島県の復興にあらゆる形

で貢献できるよう、会社の先頭に立ち、福島に思いを寄せるメンバーとともに、活動を続けていきたいと思っております。また同時に、福島で学ばせていただいたことを自身の業務にも生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

【副知事】
知事から、お願いします。

【知事】
ただ今、八木さん、そして海鉾さんから素晴らしいプレゼンをいただきました。お二人のような心強い、たくましい支援が、我々の背中をグッと押してくれているなということを改めて実感しました。
「未来をつくるプロジェクト」の本質は、「ありがとう」と「続けよう」だと思います。やはり、感謝の気持ちを、我々自身が多くの方々にきちっと伝えていく。一人一人、目を見て、手を交わしながら「ありがとう」と伝えていくことです。
それから、「続けよう」というのは、二つあります。まず、福島県に住む我々自身が、復興に向けた取組をしっかりと発信していくこと。そして、我々を支えてくださる方々に、支援を続けていただくこと。この両方が続いていくことで、本当の意味での福島の復興を、未来に向けて成し遂げることができると考えております。
多くの方々と連携して、しっかりと未来をつくっていきたいと思っておりますので、皆さんの御協力をよろしくお願いします。

【副知事】
最後に、「追悼復興祈念行事について」、企画調整部長。

【企画調整部長】
追悼復興祈念行事について、パンフレットを１枚入れさせていただいております。３月１１日に「ふくしま追悼復興祈念行事」ということで、内容としては、追悼復興祈念式とコンサート、そして県内各地でキャンドルナイトが予定されております。祈念式及びコンサートについては、今月２０日まで参加者を募集しておりますので、是非、周知について御協力をお願いいたします。

【副知事】
以上で、復興推進本部会議を閉じます。